

令和2年度 学校研究 ～今年度の取り組みとまとめ～

今年度の研究への各学部の取り組みや実践から得られた成果と課題を、学部ごとにポスターに作成し掲示しました。その中から、各学部の成果と課題についてご紹介します。前回紹介できなかった、寄宿舎の研究概要についても掲載しています。

1. 幼稚部テーマ「学習の基礎となる傾聴態度を形成し、話題や状況を理解する力を育てるための教師のかかわり方」

【成果】

- ・ 個別の教育支援計画、個別の指導計画をもとに、幼児にかかわる全教員で課題や指導の方向性について話し合い、かかわり方を共有することができた。
- ・ 学級を中心とした小集団の中で、日々、上記の課題と指導の方向性に基づき言語活動を積み重ねながら、合同活動の中でも働きかけ方を工夫したことにより、多くの幼児に傾聴態度や理解力が徐々に育ってきた。

【課題】

- ・ まだまだ個別の働きかけが必要な幼児に対しては、合同活動の中でも個別の言語指導や支援をしまいがちになり、自分からT1の働きかけに目を向ける姿勢が弱くなりがちだった。→過度な個別支援にならないような働きかけのタイミングを見極めることが大切。
- ・ 言語発達が未熟な幼児でも、社会性の伸長のためには集団活動が必要。集団の中で育てるべき力を言語指導の場面とのバランスを考えるなど、活動のねらいに応じて言語指導の比重を考慮していくことが大切である。



幼稚部ポスター発表〈研究の実践〉より

2. 小学部テーマ「伝え合う力を高める授業

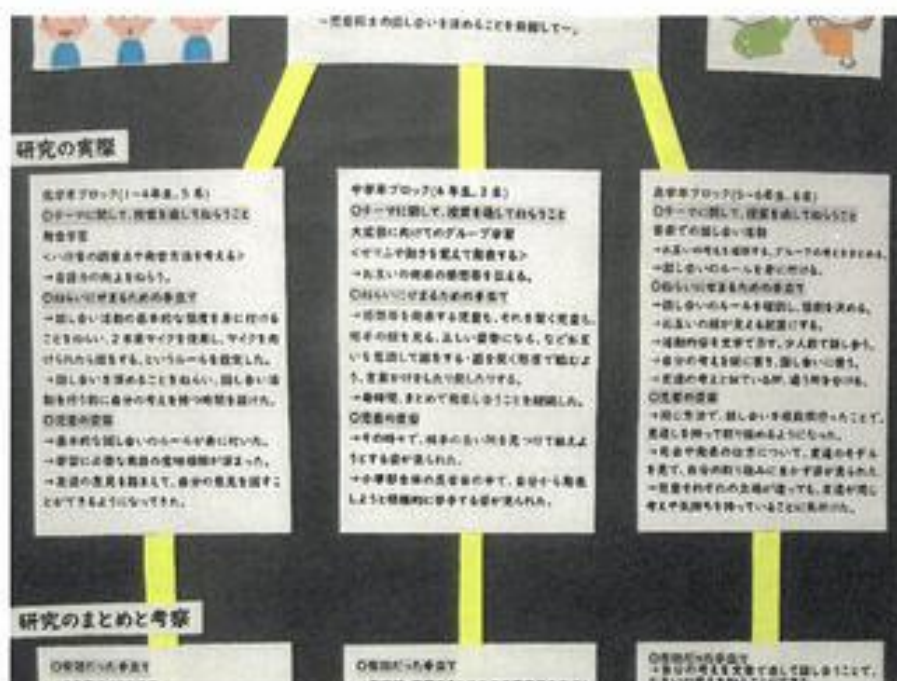
～児童同士の話し合いを深めることを目指して～

【成果】

- ・授業実践を通して、児童それぞれの立場が違って友達と同じ考えや気持ちを持っていることに気付く、友達の意見を踏まえて自分の意見を話すことができるようになるなど、児童同士の伝え合う力を高めることができた。

【課題】

- ・学級や学年の枠を超えた学習集団を考える必要がある。
- ・話し合いのテーマや何のために話し合うかを理解し、見通しを持って話し合う経験を積み重ねること。
- ・共通の方法で、話し合いの経験を重ねること。
- ・話し合っただけ良かったという喜びや充実感が伴う経験を積み重ねること。
- ・自分の考えを正しく伝えるための文章力を付けること。
- ・相手と自分の考えを比較したり関連付けたりする力を付けること。



小学部ポスター発表〈研究の実践〉より

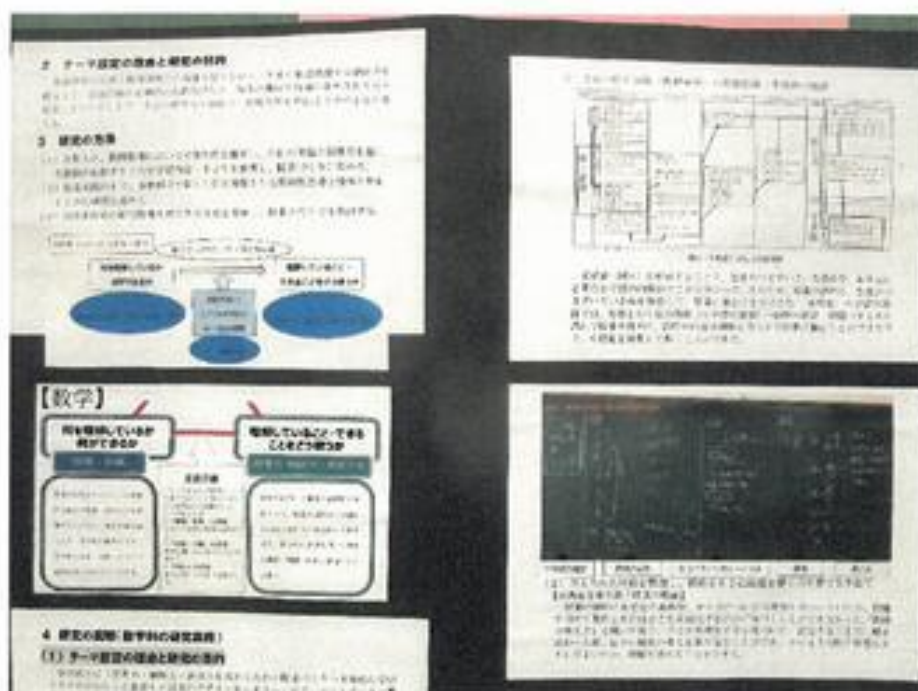
3. 中学部テーマ「各教科の目標に沿った言語活動を通して、思考力・判断力・表現力等を育む授業づくり」

【成果】

- ・生徒が、「何を求めるべきなのか」や「自分の知っている知識の中で何をを使うのか」を整理し考えることが、自分の考えを教師に説明したり、文章にまとめたりする上で有効であった。
- ・与えられた情報を整理し筋道を立てて考える経験を通して、生徒は少しずつ自分の考えを論理的に説明することができるようになった。
- ・生徒の思考につながる「問い」が言語活動として有効であった。

【課題】

- ・少人数の授業であっても、生徒が様々な意見を知ることができるような工夫が大切である。
- ・他の教科の学習内容と結び付けて横断的な学習を進めることは、今後とも取り組んでいきたい。



中学部ポスター発表〈研究の実践〉より

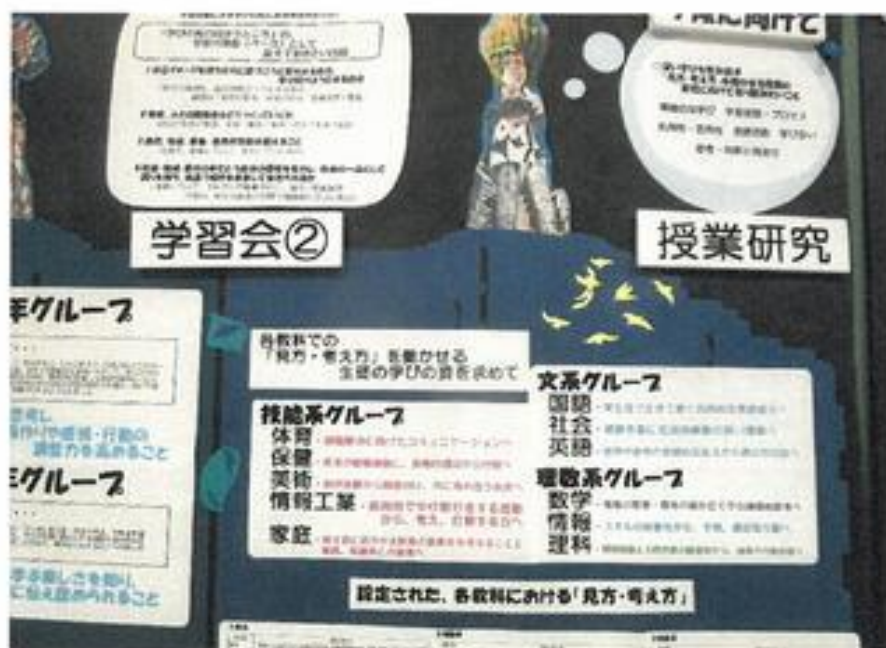
4. 高等部テーマ「各教科等の「見方・考え方」を働かせ、学ぶ喜びのある授業を求めて
～「深い学び」への考察を視点に持ちながら～」

【成果】

- ・各教科で「見方・考え方」を設定し、教科の本質に向かう授業が実践できた。
- ・「深い学び」への視点を持って深く課題を掘り下げ、チームで定期的に対象生徒について語り合うことができた。
- ・学習会を通して、学習指導要領改定の準備に繋がる「改定の主旨や用語の読み解き」や「学部として捉えたい学び」について話し合うことができた。

【課題】

- ・「深い学び」の捉えは、具体的な生徒の姿がイメージしにくく、活動の様子をどのように判断したらよいか難しさがあった。より具体的な生徒の姿を求めながら、「深い学び」を含めた授業改善の三つの学びを連動させた授業研究を進める必要がある。
- ・実社会でも役立つ資質・能力の育成に繋がる、各教科等の「見方・考え方」を明確にした授業実践の充実が必要である。



高等部ポスター発表〈研究の実践〉より

5. 寄宿舎テーマ 「言語力の向上を目指した取り組み」

～語彙力・表現力を身につけるために～

○主題設定の理由

目指す生徒像

正しく、そしてたくさんの言葉を知り、活用できる。

様々な表現方法を知り、自分の気持ちを表現できる。



指導員の働きかけ

正しく言葉を覚えたり、知っている言葉を増やしたりするための取り組みの実施

自分の思いを伝える機会を積み重ねられるような取り組みの実施



今まで以上に言葉や表現に関心を持ち、活用できる力を身につけるきっかけづくり

○実践内容

語彙力の向上と表現力の向上に向けた取り組みを指導員が2グループに分かれて実施。

実践の柱を指導員が発信する掲示と生徒参加型の取り組みの2本柱とし、行う。

実践方法を3つに分けて行った。(内容は一部抜粋)

実態把握のアンケートについて

- ・物と言葉の一致ができていどうかや知っている言葉の数、正しく言葉を覚えているかを確認する。
- ・イラストや4コマ漫画を見て、その状況を説明できるかどうか。



実際のアンケート用紙。写真やイラストを使用し、作成した。

(左の用紙)
語彙力に関するアンケートで、物と言葉の一致や語彙数の把握を行った。
(右の用紙)
表現力に関するアンケートで、絵を見てその状況を説明したり、自分の好きな食べ物を紹介したりする設問を設定した。

令和2年度 学校研究 ～各学部の取り組みについて～

5月の全体研修会で確認した学校研究主題「思考力・判断力・表現力」を高め育む授業づくり～主体的な学びと人とのかかわりを重視した授業のデザインをしよう～に基づき、幼・小・中・高等部の各学部でテーマを設定し、研究計画を作成しました。

【幼稚部】

〈学部テーマ〉 幼児一人一人の言葉の力を育て、かかわり合う力を高めるための指導のあり方



〈テーマ設定の理由と研究の目的〉

- 幼児の発達段階や言語発達状況に応じて、集団でのかかわり合いを深めていくためには、個々の幼児の実態を的確に把握し、目標を明確にして指導することが求められる。
- 今年度は、個別の指導計画等を基に個々の幼児の発達状況や言語力を把握し、教師間で共有しながら一人一人の目標・課題を明らかにして指導していきたい。

〈研究の方法〉

- ① 個別の指導計画をもとに、幼児一人一人の実態と指導の目標を教師間で共有する。
- ② 「言葉の力を育てる」「かかわり合う力を育てる」の観点から、テーマを決めて授業検討会を実施する。（指導案の検討→授業実践→振り返りと改善のアイデアについての協議 2回程度）

【小学部】

〈学部テーマ〉 伝え合う力を高める授業
—児童同士の話し合いを深めることを目指して—

〈テーマ設定の理由と研究の目的〉

- 昨年度の研究の課題として、「児童同士の話し合いを深めるための工夫」が挙げられていた。
- 今年度の学校研究では、授業を「言語活動」の視点から捉える考え方が示されている。
- そこで今年度は、児童の「話し合い活動」に関する実態把握をし、児童同士の話し合いを深めるための手立てを工夫することで、授業改善に努めていくように考えた。



〈研究の方法〉

- ① 指導の「話し合い活動」に関する実態把握表を作成し、低、中、高学年ブロックごとに情報共有、意見交換を行う。
- ② 各ブロックで2学期に1回研究授業を実施し、更なる授業改善を目指す。

【中学部】

〈学部テーマ〉各教科の目標に沿った言語活動を通して、思考力・判断力・表現力等を育む授業づくり

〈テーマ設定の理由と研究の目的〉

- 各教科等の目標と指導事項との関連を図りながら、生徒の発達段階や言語能力を踏まえて、言語活動を計画的に位置付けたり、授業の構成や指導の在り方を工夫・改善したりすることで、生徒の思考力・判断力・表現力等を育むことができると考える。

〈研究の方法〉

- ① 各個人が、教科指導において対象生徒を選定し、生徒の実態と課題等を基に、各教科の目指すところや学習内容・手立てを整理し、授業づくりに努める。
- ② 授業実践の中で、各教科会や同じ生徒を対象とする教科担当者と情報を共有しながら研究を進める。
- ③ 初任者研修の研究授業を核に互見授業を実施し、授業の在り方を検討する。



【高等部】

〈学部テーマ〉各教科等の「見方・考え方」を働かせ、学ぶ喜びのある授業を求めて一言語活動の高まり等への視点を持った「深い学び」の考察をしながら—

〈テーマ設定の理由と研究の目的〉

- 各教科等の「見方・考え方」は、学校や学習の中だけで働くのではなく、世の中の様々な物事を理解・思考し、よりよい社会や自らの人生を創り出していく重要な働きをされると考えられる。「見方・考え方」を働かせる授業実践を通して生徒の言語活動の高まりを図りながら、思考力・判断力・表現力を育むとともに、「深い学び」について考察していきたい。

〈研究の方法〉

- ① 各教科、系統のグループで検討・作成した「見方・考え方」を表し、学部内で共有する。それらを働かせる授業実践に取り組み、各学年対象生徒における授業実践・考察を3回実施する。
- ② 対象生徒にとっての「深い学び」への視点を持ち、・言語活動の高まり・情緒的体験としての学び・汎用性、活用性、その他についての考察を同時に行う。
○学年ごとの対象生徒のグループで、生徒の姿から話し合う。



2学期以降、それぞれの学部でテーマに即した授業実践・協議を行いながら研究を進めていきます。

お楽しみ会について

- ・クモの楽（言葉の連想ゲーム）の形式でお楽しみ会に関する言葉をたくさん引き出せるようにする。
- ・お楽しみ会の感想用紙の記入を通して自分の気持ちを表現できるようにする。

リクエストメニューについて

- ・「食べ物」に関するワードを題材にし、言葉をクモの楽状に広げていく。
- ・リクエストメニューのアンケート用紙や感想用紙への記入をとおして、自分の気持ちの表現だけではなく、相手への伝わりやすさを表現できるようにする。



感想用紙を書く際のポイントなどについて掲示を作成して周知した。

クモの楽形式の用紙を使用して、記入しやすいように工夫した。

【成果】

実践を通しての生徒の様子

- ・いつも感想を記入する際「楽しかった。」「またやりたい。」と一言で終わっていた生徒が、何が楽しかったか・どんな様子だったのかを具体的に書けるようになった。
- ・掲示物を見ながら自分の考えを整理して表現する過程を積み重ねることができた。
- ・日頃会話の少ない生徒同士が会話するきっかけになった。

【課題】

- ・掲示と生徒の用紙への記入が実践の中心となると、生徒一人一人が意識して取り組めるように指導員の働きかけが大切になるため、掲示や記入用紙の工夫が必要である。
- ・卒業後の生活を見据え、生徒自身が自分の言語力の実態や課題を知り、そのために何をすべきなのかを考えられるようなきっかけを今後も研究の機会を通して作っていき、一人一人の豊かな言語力を育てていける支援をしていくことが大切である。